

理科(物理・化学・生物・地学) 北海道大学 総合入試【理系】、学部入試【水産】

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

空所補充, 記述, 論述, 選択, 計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

計算過程を記述する問題は, 昨年度より 1 題減少して 4 題となったが, 字数指定の論述問題の総字数がやや増加(255 字→300 字)した。

出題の特徴や昨年との変更点

論述は例年通り「〇〇字以内」という形式で 10 字～40 字にまとめる問題であり, オーソドックスな内容であるが文章をまとめるのにやや時間を要する。問われている内容は難しくないが, 題意を捉えにくい問題も多い。

その他トピックス

2問 5 の半減期から年代を求める問題と同傾向の問題を, 2024 年度北大オープン(2023 年度実施)2問 3(1) で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	空所補充 計算 論述 選択 記述	プレートテクトニクス	地学基礎 地学	問 6 は下線部 e が何を示すか考えなければならない。東太平洋海嶺で作られたプレートは太平洋プレートであり, この太平洋プレートが沈み込む「隣接した」プレートであるため, 北アメリカプレートとフィリピン海プレートと答えるのが妥当だろう。	やや易
2	空所補充 選択 論述 計算	地質年代	地学基礎 地学	問 1 のウとエは解答に迷うかもしれない。特にエは複数の解答が考えられる。問 4 は教科書に記載されていない内容であり, 悩んだ受験者も多いのではないだろうか。	やや易
3	空所補充 選択 論述 計算	大気と海洋の運動	地学基礎 地学	問 1 のアとイは複数の解答が考えられる。問 4 は単位に注意し, 単位面積で考えると分かりやすいだろう。	標準
4	空所補充 選択 計算	太陽	地学基礎 地学	問 3 は白斑の数は関係なく, 黒点の総数を出すうえで, 黒点群が複数の黒点の集まりと考えれば正答に至ったかもしれない。問 5 の計算は単純であるが, 太陽と地球の距離(1 天文単位 = 1.5×10^8 km)を覚えていなければ正答できない。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

合格点に到達するためには、教科書に記載されている内容をきちんと理解しておかなければならない。一部、教科書にない用語や現象を取り上げることもあるので、地学を得点源にしたい・高得点を狙う受験生は、図や表を含めて教科書をしっかり読み込んでおきたい。また、計算問題では計算過程を書く場合が多いので、普段から計算の流れを書く習慣をつけておきたい。論述問題は字数制限が「〇〇字程度」ではなく、「〇〇字以内」なので、文章をまとめる力も養っておこう。